

絵画 II

科目ナンバリング ARL-110
選択 2単位

森 覚

1. 授業の概要(ねらい)

1867年に王政復古の大号令を発し、天皇親政を掲げる新政権として成立した明治新政府は、新たな国家体制の整備と国内の近代化を図るために、さまざまな変革を行ないます。

その一つが欧化政策と呼ばれるものです。

19世紀末は、欧米列強諸国が東アジアを植民地化していった帝国主義の時代であり、日本もまた、その脅威にさらされていました。

そこで新政府は、こうした国際情勢に対処するため、西洋文明の先進的な知識や制度、科学技術を積極的に導入し、国力の増強を図ろうとしたのです。

この動きのなかで、他の文物や知識とともに、ヨーロッパからもたらされることになる美術は、日本において、同じく西洋で発達した国民国家という考え方と結びついていきます。

それにより、日本という国家の独自性を国内外に示す文化の一つとなる「日本美術」という概念が生み出され、さらには、日本画・洋画・歴史画といった絵画ジャンルが作られていくことになるのです。

本授業では、そうした近代日本で人工的に創出される「日本美術」と、これに付属して生まれた日本画や歴史画などに関する展開を追いつつながら、西洋で発達した「美術」が、日本で受け入れられていく経緯について見ていきます。

また、近代という時代は、科学技術の発達により新しいメディアが登場した時代であり、近代日本の絵画表現も、絵本や雑誌などの挿絵にさまざまな影響を与えています。

そこで、もう一つのテーマとしては、美術分野の思想や諸作品が、近代マスメディアの表現に与えた影響について注目し、娯楽を通じて広く社会や人々と「美術」が交わってきた実態について探ります。

2. 授業の到達目標

- ①日本の近代化とともに成立した近代日本美術の展開について理解する。
- ②日本美術という概念へ反映された異文化の影響に気づき、説明できる。
- ③画家の創作に影響を及ぼした同時代の世相や思想、他分野の文化現象について知る。
- ④絵画が歴史的にどう利用されてきたのかを理解する。
- ⑤絵画作品に与えられた意義と価値観が、地域や時代とともに変化していることに気づく。

3. 成績評価の方法および基準

授業態度(10%)

リアクションペーパー(20%)

中間レポート(20%)

学期末レポート(50%)

4. 教科書・参考文献

教科書

佐藤道信 『〈日本美術〉誕生 近代日本の「ことば」と戦略』 講談社

参考文献

大塚英志 『ミュシャから少女マンガへ 幻の画家・一条成美と明治のオールヌーボー』 角川書店

北澤憲昭 『眼の神殿 「美術」受容史ノート』 ブリュッケ

山梨俊夫 『描かれた歴史 日本近代と「歴史画」の磁場』 ブリュッケ

中村隆文 『「視線」からみた日本近代』 京都大学学術出版会

5. 準備学修の内容

- ①教科書とレジユメをよく読み、内容を理解する。
- ②わからない言葉を確認して調べておく。
- ③リアクションペーパーや中間レポートを提出してもらうので、毎回、授業の内容をまとめておくこと。

6. その他履修上の注意事項

本授業は、受講者自らが描き、表現するという実践型の授業ではなく、明治時代以降の絵画やことばを事例として、近代日本美術という分野の成立と展開について知ることを目的としています。

毎回の授業では、日本が近代国家の道を歩む中、西洋世界といかに文化接触し、どのような絵画表現を生み出してきたのかについて話します。

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーション、近代の国民国家とナショナリズムについて
- 【第2回】 美術をめぐる言説と表象、「近代日本美術」とはなにかー 時間と空間の枠組
- 【第3回】 造語としての「美術」ー 画学から書画、書画から絵画へ
- 【第4回】 絵画ジャンルの形成ー 日本画と西洋画
- 【第5回】 歴史画というジャンルの創出
- 【第6回】 人間と自然をめぐる描写ー 現代美術について
- 【第7回】 美術をめぐる環境制度の形成ー 階層・行政・団体・コレクション
- 【第8回】 「日本美術史」の創出ー 美術史とは誰のためのものか
- 【第9回】 近代マスメディアと美術
- 【第10回】 歴史画としてとらえ直す講談社の絵本
- 【第11回】 講談社の絵本『桃太郎』における日本画の表現
- 【第12回】 講談社の絵本『日蓮上人』にみる偉人像の変化ー 日本画・歴史画としての表現
- 【第13回】 東洋画・宗教画としてみる仏教の絵本ー 表現に反映される学術研究の知識
- 【第14回】 創りかえられる絵画作品ー 複製技術時代において西洋美術が日本の創作表現へ与えた影響
- 【第15回】 総括&学期末レポート